

大阪市立築港中学校 平成 27 年度 校長経営戦略予算【加算配布】配布申請書
(補足説明資料)

1. ねらい (必要性と効果)

- (1) 本校校区は、大阪市のスポーツ施設を代表する八幡屋スポーツセンターと隣接し、大阪市中央体育館や大阪プールを利用しやすい環境にある。国際大会や国内のスポーツ行事が数多く行われているが、実際に足を運ぶ生徒は少ない。昨年度、大阪プールアイススケート場を利用したスケート教室を企画し、身近にある施設を活用したスポーツ体験をすることで、生涯スポーツの土台を育みスポーツの楽しさを実感させる有意義な取り組みを実施することができ、生徒・保護者・地域の方々に満足していただいた。

今年度も、継続的に実施しより一層の体力向上を目指す。

- (2) 本校校区には、世界でも有数の水族館である「海遊館」が立地しいつでも足を運べる環境にありながら、有効に活用することができていない。理科教育の充実を図るために、「海遊館」を課外授業研究の場として位置づけ、理科の授業としてグループ学習に取り組み、理科への興味・関心を持たせるとともに、研究発表会を実施し言語活動の推進にもつなげていきたい。

- (3) 学力の向上に向けて、時間割を工夫し少人数授業・習熟度別授業をできる限り多く取り組み、きめ細かい指導を心掛けている。しかしながら、全国学力学習状況調査の結果から家庭学習の定着が大きな課題となっている。課題克服のため、昨年度は全校で「漢字検定」に取り組むことで、保護者も巻き込んだ家庭学習習慣の形成にかなり効果があった。

今年度は、「漢字検定」「英語検定」を活用して、より一層の家庭学習の充実や基礎学力の向上に結びつける。

- (4) 昨年度、校内の教育環境を整備し、いつでも学習するという姿勢を作り出すために、階段蹴上部分を活用した学習アイテムを作成し、視覚的な刺激と遊び感覚的な中で楽しく学習する雰囲気を作成することができ、生徒・保護者に大変好評であった。

今年度は、より一層学習に興味を持たせるために目の前の学習内容に対応し、充実した内容にするべくバージョンアップを図りたい。

- (5) 部活動は熱心に取り組んでいるものの、小規模校のため各部共に部員数の確保に苦慮しており、活気不足に陥りやすい状況である。生徒が主体的に取り組み、部活動の意義や目的をしっかりと理解し、科学的根拠に基づいたトレーニング理論やコーチング理論を身につけ、達成感を味あわせる。

- (6) 昨年度、本校校舎一階ピロティの吹き抜けを利用した「築港中ミュージアム心の癒し空間」を整備し、落ち着いた教育環境を創り出すとともに、いじめを生まない人間関係を築く場としても活用している。

今年度も自己有用感の育成に向けて継続的に実施するとともに、新たにピロティ～芝生広場～体育館というスペースを利用して豊かな心の育成や体力健康作りに活用する。

2. 具体的な取り組み

- (1) 体力向上への支援 (アイススケート教室の開催)

*各学年で1単位(2時間)の3回コースでスケート教室を実施し、

- ①運動する楽しさを体感させる。
- ②バランス感覚を養い、基本の大切さを学ばせる。
- ③生涯スポーツの土台を築く

上記3点の目標に向け、昨年以上の成果を上げる。



第3回スケート教室(1/16)に向けて



いよいよ☆認定講習です！



冬休みをはさみ、年明けに最後のスケート教室があります。
これまでの練習成果をコーチの方に見ていただき、スケートの
技術認定（片足滑走や止まり方の到達度）をしていただきます。
「テストはいやだなあ〜」という声もチラホラ聞こえてきました
が、ただ「すべることができてうれしい」ということだけで満足
せず、これまで学んだことを判定していただくことで、自分を次への目標にできればと思います。

また、今回のスケート教室は、保健体育科の授業の一環として位置づけていますので、これからの
体力作りや生涯スポーツにつながればと願っていますので、ぜひともめげずに、そして果敢にチャレ
ンジして欲しいと思います。

覚えていますか宿題？ 上達への第一歩です！

- (1) 「片足で滑るため」の練習として家の畳のふちを利用してハの字で5分間歩く
- (2) 「クロス」の練習として、左足に体重をのせ、右足を前に上げて交差する！
- (3) 膝をまげることが上達のコツなので、常に気を付けること！



11/15の事前指導でお世話になった日本スケート連盟 スピード常任委員
高橋 一さんからのアドバイス
「電車のつり革を持って踏ん張る時のような感じで下半身を安定させると
いいですよ！」

上達できた! 第2回スケート教室

アンケート結果&感想

第2回スケート教室のアンケート結果と感想です。

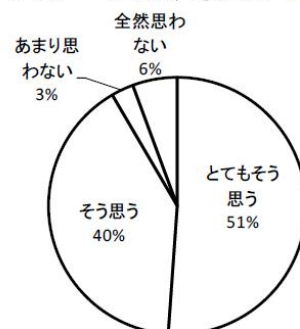
「とても楽しかった」「楽しかった」の合計は前回と同じぐらいでしたが、「とても楽しかった」という
割合が少なかったようでした。前回より技術面で難しかったことやグループ学習についていきにくい人
がいたので、このような結果になったのかと思います。

ただ、下記のような感想が多く、全体的には上達したと感じる
人も多くいたので、第2回スケート教室も大成功でした。

- ☆どんどんうまくくるのがわかるので楽しかった。
- コーチの方々のおかげです。教えてもらってコツがつかめた。
- ☆合格がもらえてうれしかった。次も頑張りたい！
- ☆テレビで見たことのあるクロスやいろいろな止まり方を
教えてもらいうれしかった。
- ☆練習の成果が出てきた。

裏面へ

スケートは、楽しかった



①「海遊館」で課外授業研究

②プレゼンテーションの実施

③昨年度から継続しているプロジェクトチームによる共同研究

①日々の授業実践

*英検対策講座を開設し、自己学習教材を活用した取り組みを行う。

漢字検定の5級から3級の過去問題を組み合わせて作成したテストを全校一斉に実施する。実施一週間前から分野・級別に分類した家庭学習用の問題も配布し、家庭学習の定着を図る。各学年の到達ラインを設け、達成するまで再テストを繰り返し基礎の定着を図る。

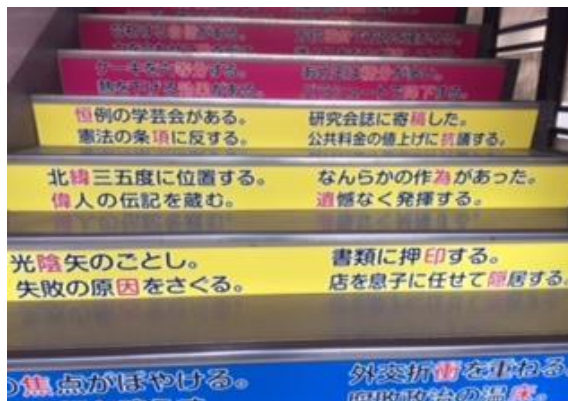
「英検」の合格率をアップするために、放課後や土曜日を活用したプレ英検である「築港英検」に取り組むことで、自ら学習する意欲を高め、本校の課題である家庭学習習慣の育成につなげる。

取り組みの成果を図るため学校を会場に設定した「漢検」「英検」を実施する。その際、「受検案内」や「国語科だより」を配布し、意欲的に受験する生徒が増えるように取り組みを工夫する。

ホームページ等で保護者にも「漢検」「英検」の参加を呼びかけ、子どもと一緒に学習する機会を設ける。共通の話題をきっかけに家庭でのコミュニケーションが増加し、生徒の家庭学習定着につなげる。

昨年度から取り組んでいる階段ボードを校内で作成することで、より多くの学習機会を提供し、毎日の上り下りを利用した学習で、興味関心を高める。

(漢字バージョン)



helt - held - held (持つ)
think - thought - thought (思う)

sleep - slept - slept (寝る)
teach - taught - taught (教える)

sell - sold - sold (売る)
send - sent - sent (送る)

meet - met - met (会える)
say - said - said (言う)

make - made - made (作る)
mean - meant - meant (意味する)

leave - left - left (立ち去る)
lose - lost - lost (なくす, 失ける)

hold - held - held (持つ, 続ける)
hear - heard - heard (聞く, 知る)

have - had - had (持っている)
find - found - found (見つける)

buy - bought - bought (買う)
catch - caught - caught (つかまえる)

bring - brought - brought (持ってくる)
build - built - built (建てる)

come - came - came (来る)
run - ran - ran (走る)

pass - passed - passed (通る)
go - went - went (行く)

become - became - became (なる)
put - put - put (置く)

(4) 部活動を通して人間性・社会性の育成

① BUKATSU アンケートの実施

部活動における目的・価値・意味をアンケートを通して分析し、部活動における教育目標と寒天別評価基準を明確化することで、部活動はもちろんのこと学級活動にも生かすことができる。

② メンタルトレーニング講習会の実施

科学的根拠に基づいた合理的な部活動を実践させ、生徒自らが可能性を引き出すことができるような講習を提供する。

(5) 教育環境の整備

① 豊かな感性を育てる

昨年度整備した「築港中ミュージアム心の癒し空間」を積極的に活用し、子どもたちの作品を展示することで、個性豊かな作品や学年を超えた様々な作品に触れることで、子どもたちの可能性を引き出すとともに自己有用感を育成する。

★自己有用感とは★（生徒指導リーフ、いじめのない学校づくりより）

単なる自己肯定感や自己存在感ではなく、相手からの好意的な反応や評価があって感じることのできる自己の有用性のことを自己有用感と呼びます。

他者から認めてもらえていると感じられた子供は、いたずらに他者を否定することも、攻撃することも減ります。相手を貶めて自分の存在を相対的に高めるといふ必要がないからです。さらには、相手のことも認めることができるようになってきます。すべての児童生徒に対して、授業や行事の中で活躍できる場面を設定していくことが、いじめの未然防止につながります。

② 保護者・地域への開放

安全上の課題はあるが、生徒の作品を多くの方々に見ていただける絶好のスペースであり、土曜授業や学校公開を利用して有効に活用する。

③ 芝生広場や体育館を活用した体力健康づくり

区役所と連携して芝生化実行委員会が立ち上がり、中庭スペースに「芝生広場」が整備されています。手軽に利用できる各種ニュースポーツ用具（ターゲットバードゴルフ・スカイクロス等）を整備し、遊び感覚で体力づくりや豊かな心の育成を図る。

